第15号
2005/8/31

フクタニュース

発行
(株)フクタ
砕石部

秋立ちて 夏の疲れをとりもどす

性能と価格
～ 価格は誰が決めるのか ～

そもそも、砕石に明確な性能の差はあるだろうか。

原石の成因の違いによる組成、密度、吸水率、耐久性の違い、製造工程による粒度、粒形等の違いはあるのだろうがその品質の差を理解容認する市場の雰囲気は無いように思う。

砕石は極端に地域性の強い商品であり同じ規格性能のものでも、岩手県と青森県では価格が違う。もっとローカルに言うと二戸と盛岡でも違う。ただ、はたして現状が品質の優劣を踏まえて売手と買手が取引きできているのかは、はなはだあやしい。

調査会社の価格調査により設計価格が決まりその価格により建設業者が応札、受注し、その価格による取引実態が調査の対象となる。循環をしているため、売買の中に価格を決定する隙間が非常に小さい。

法の開発に取り組み難い環境となっており、品質改善の試みや新製品、新工法も改善がなされていない中、改良を重ねてきたとしてもおそれがあるのが現状ではないかと思う。今公共工事においても性能規定による発注がなされている中、改めて性能とその価値の適正な整合について考える今日この頃である。

秘密兵器誕生

商品を作りました。

『150～0』というJIS規格にはありませんが、すこ～しずつ使ってもらっています。

用途は、路床の置換（岩ズリに比べ施工性が格段に向上し、下層路盤の代用にもなる。）や、カゴブロックの中込材等です。

試験一式のデーターもありますので、皆さんのアイデアで色々な用途で使ってみて頂ければと思います。

路床の例

カゴブロックの例

その道の技

『この道50年がつくる伝統技の味わい』伝統云々と言われると重みを感じてしまいこういう文句にどうも弱い。先日、機会があって林業の伐採作業の現場研修会に参加させていただいた。

林業のイメージは、長年の経験を積んだベテラン（高齢者、失礼ながら・・・）の、まさしく『この道○○年の技』で成り立っているのだろうと思っていたら、以外にも就労者は20代とおぼしき若者で、しかも2人は独身とのことで最初から意識改革をせまられました。

林業（立木の伐採作業）は危険を伴う作業で労働環境は厳しいものはあると思うのだが、しっかりと世代交代、技術の継承、環境改善、モチベーションの高揚への取り組みがなされていると感心しました。

新しいスタンダードを考える上で『その道の技』を生かす工夫も必要なのではないかと山の中で思いました。

編集後記

朝晩と少し肌寒さを感じるようになりましたね（涙）。夏も終わりです。9月は二戸はお祭り・・・。『なにゃどやら』という踊りが軽快で楽しくて、今年も我社の従業員の一人が参加します。さあ誰でしょう・・・。